

第 3 節 方針及び目標

1 方向性

新たな計画の方向性は、「基本的な方針・目標・目標指標は第二期までの計画を継承し、まちづくりの中長期的な一貫性を確保」しつつ、「中心市街地の区域や計画事業については認定計画として検討したものをベースに、長野市の現状に即したもの」とするが、文言について発展的に見直し、端的かつ覚えやすいキャッチフレーズに一部変更する。

2 基本的な方針、目標、目標指標等

| 基本的な方針 | 活性化の目標 | 目標指標 | 基準値 (H28) | 当初 目標値 (R03) | 予測値 (R06) | 新目標値 (R06) 対当初目標値 (R03) |
|-------------------|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------|--------------|--------------------|--------------|-----------------------------------------------------|
| まちなか 観光の 推進 | 目標 1 行きたく なるまち | 善光寺仁王門 前 [*] の歩行者・ 自転車通行量 (人/日) | 27,150 | 30,000 | 24,212 | 26,000 ▲4,000 (86.67%) |
| まちなか 居住の 推進 | 目標 2 住みたく なるまち | 総人口に対す る中心市街地 の 人口比率 (%) | 2.47 | 2.65 | 2.61 | 2.65 ±0 (100%) |
| まちなか 回遊の 推進 | 目標 3 巡りたく なるまち | ①中心市街地 (6地点 [*])の 歩行者・自転車 通行量 (人/日) | 112,504 | 108,000 | 106,395 | 108,000 ±0 (100%) |
| | | ②中央通り及 び権堂アーケ ード沿い1階 部分の空き店 舗数 (件) | 21 | 21 | 21 | 21 ±0 (100%) |
| まちなか 交流の 推進 | 目標 4 交わりたく なるまち | もんぜんぷら 座及び生涯学 習センター、 権堂イースト プラザ市民交 流センターの 利用者数 (人/年) | 560,735 | 583,000 | 540,829 | 550,000 ▲33,000 (94.34%) |

※ 調査地点については次々ページに図示

3 目標指標の説明

(1) 目標1「行きたくなるまち」の指標について

第二期計画において指標を平日の通行量から休日の通行量に変更したところであるが、新たな計画においても、街なみ環境の整備や集客施設の管理運営など、主に郊外からの来街者と観光客に向けた施策を展開していくため、引き続き休日における「善光寺仁王門前の歩行者・自転車通行量」を指標として設定するものである。

(2) 目標2「住みたくなるまち」の指標について

第二期計画において指標を単純人口から人口割合（比率）に変更したところであるが、新たな計画においても、教育施設の整備や遊休不動産活用など、中心市街地に居住する魅力を発信するための施策を展開していくため、引き続き「総人口に対する中心市街地の人口比率」を指標として設定するものである。

(3) 目標3「巡りたくなるまち」の指標について

ア 指標①

第二期計画において指標の調査地点を15地点から6地点に集約したところであるが、この6地点は中心市街地の区域で実施される核事業と関連が深く、歩行者の回遊行動もより把握しやすいものとなったため、引き続き「中心市街地(6地点)の歩行者・自転車通行量」を指標として設定するものである。

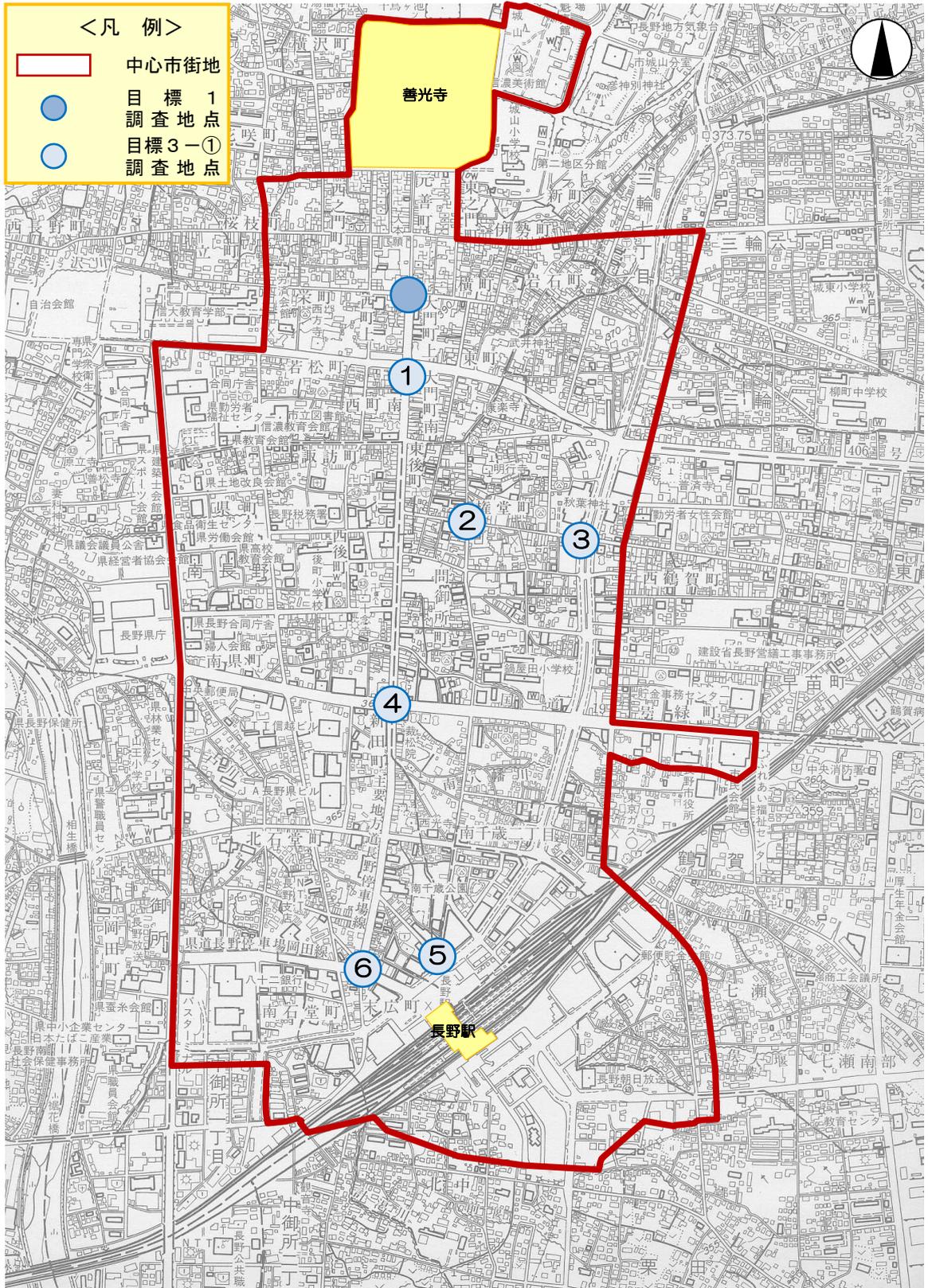
イ 指標②

第二期計画において新たに加えた指標であるが、商店街の停滞状況の改善を表す指標として、中心市街地における経済活動の活性化に焦点を合わせた目標として適当なものであるため、引き続き「中央通り及び権堂アーケード沿い1階部分の空き店舗数」を指標として設定するものである。

(4) 目標4「交わりたくなるまち」の指標について

第一期計画において整備した2大核施設における利用者数の安定と増加を引き続きの目標にするとともに、第二期計画において市街地再開発事業により整備した市民交流施設が供用開始となったことから、当該施設の利用者数を新たに加算し、「もんぜんぷら座及び生涯学習センター並びに権堂イーストプラザ市民交流センターの利用者数」を指標として設定するものである。

※ 目標 1 及び目標 3-①における調査地点



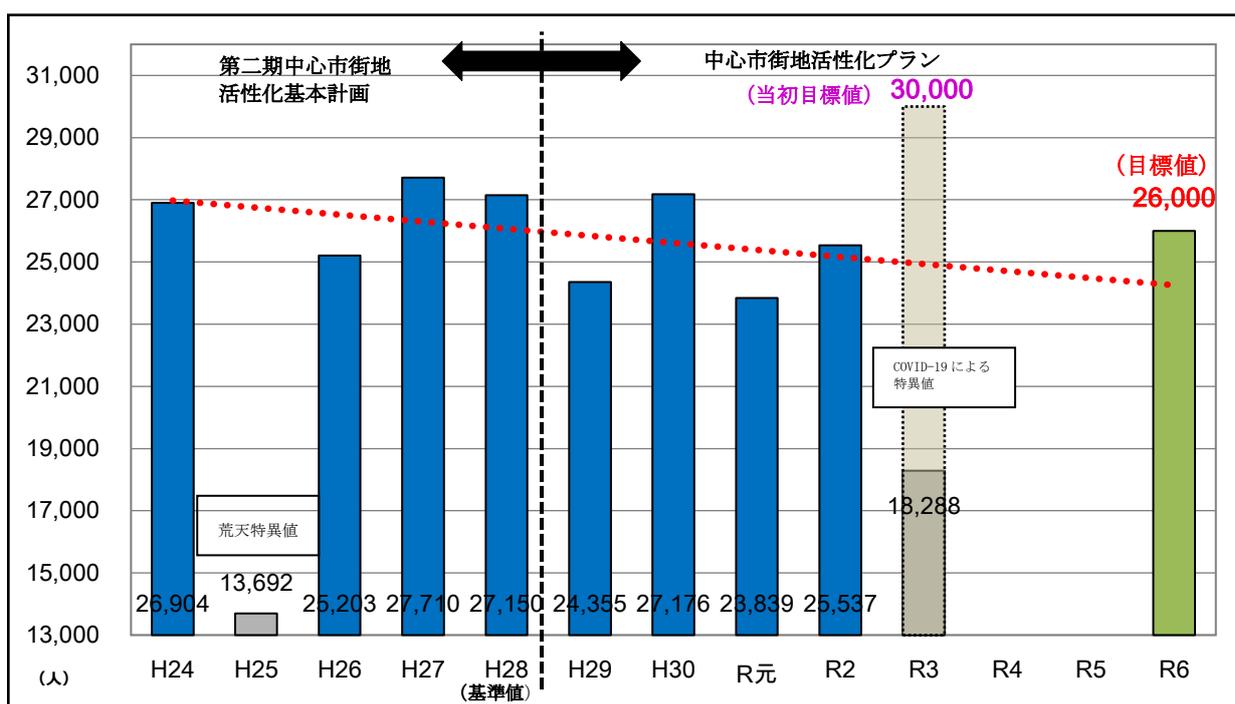
4 目標積算

(1) 目標指標1「善光寺仁王門前の歩行者・自転車通行量」に係る積算について

長野市では、平成18年に多軸型観光都市を目標に、観光振興計画「1200万人観光交流推進プラン（第1期計画）」を策定し、イヤーキャンペーンをはじめとする様々な事業を、観光事業者や市民と協働で展開してきた。その結果、キャンペーンを実施した地域では、いずれも観光入込客数が前年を上回るとともに、地域住民に意欲と自信が生まれ、観光施策の担い手となるボランティア活動が活発になるなど、着実に地域のブランド化が図られてきた。

こうした成果を引き継ぎ、更に発展させるため、平成23年10月に新たな観光振興計画「新1200万人観光交流推進プラン（第2期計画）」を策定し、平成29年に新たな観光振興計画（2期にわたる計画の統括）を策定し、観光の拠点としての善光寺界限と、戸隠や松代を重点地域として、継続的な観光誘客キャンペーンを展開している。また、「地域経済の活性化」と「地域コミュニティの活性化」を目指した新たな観光振興計画（令和4年度から令和8年度予定）を策定中である。

主に善光寺を訪れる観光客を調査対象とした仁王門前の通行量は約24,000～27,000人前後で推移しており、3年後の令和6年度における予測値を、過去の10年間の実績（特異値を除く）から回帰分析により推計すると、基準値から約10.82%減少することが見込まれる。

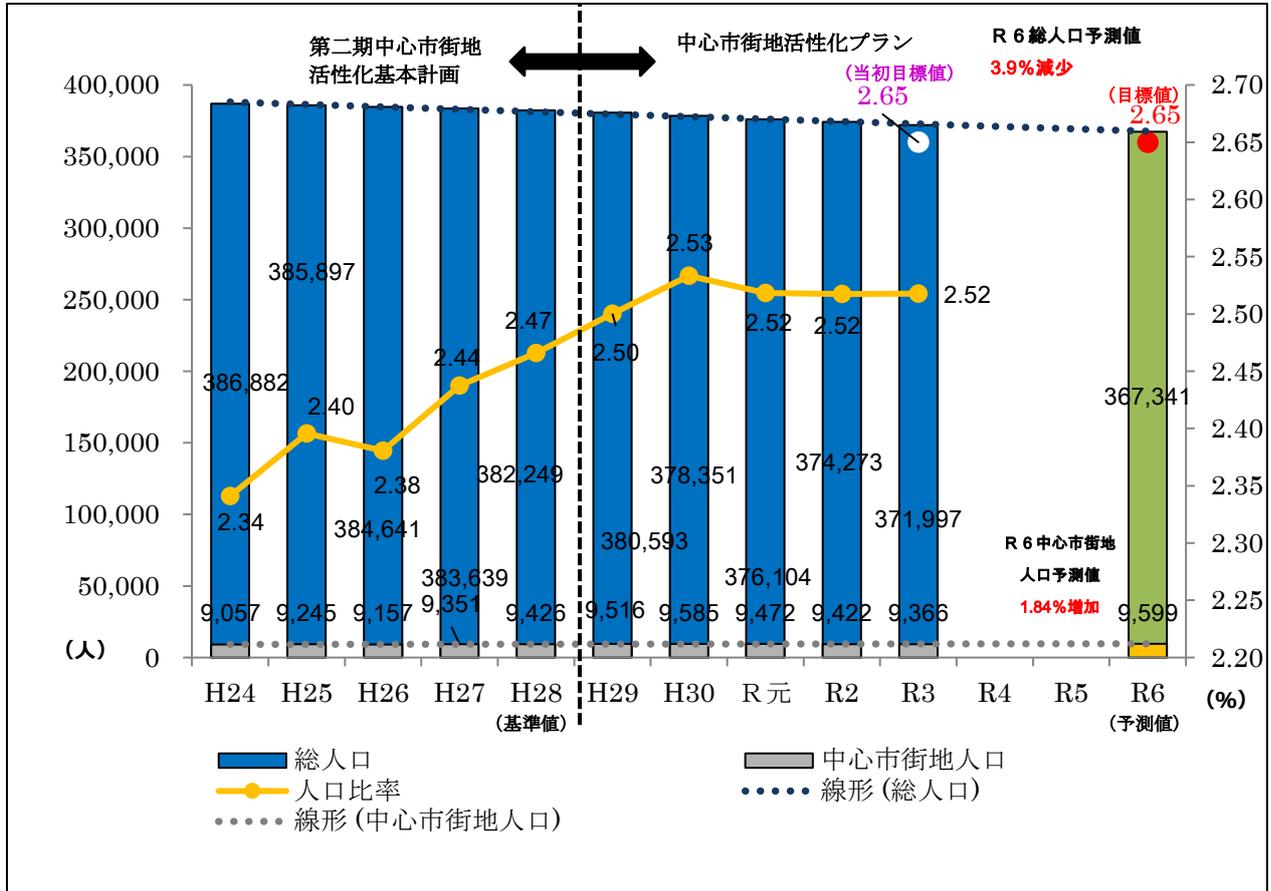


$$\boxed{27,150人} \times \boxed{89.18\%} \doteq \boxed{24,212人} \Rightarrow \boxed{26,000人(目標値)}$$

以上により、令和6年度における予測通行量を24,212人と推定し、事業の充実及びアフターコロナのインバウンドによる効果を上積みして、本計画では26,000人を目標値とする。

(2) 目標指標 2 「総人口に対する中心市街地の人口比率」に係る積算について

長野市の総人口は、昭和35年まで約30万人で推移した後、日本全体が高度経済成長期を迎えていた昭和40年から増加傾向となり、1970年代の第2次ベビーブーム期に急速に増加した。1980年代に入り、円高不況を経てバブル景気により経済状況が好転する中、総人口の増加率は次第に低下し、平成12年に387,911人とピークを迎えた後は減少に転じている。3年後の令和6年度における予測値を、過去10年間の実績から回帰分析により推計すると、基準値から総人口3.9%減少・中心市街地人口1.84%増加することが見込まれる。



3年後の総人口予測値については、

$$382,249人 \times 96.1\% \doteq 367,341人 \quad \text{令和6年 総人口予測値}$$

令和6年度における総人口を、367,341人と推定する。

また、3年後の中心市街地人口予測値については、

$$9,426人 \times 101.84\% \doteq 9,599人 \quad \text{令和6年 中心市街地人口予測値}$$

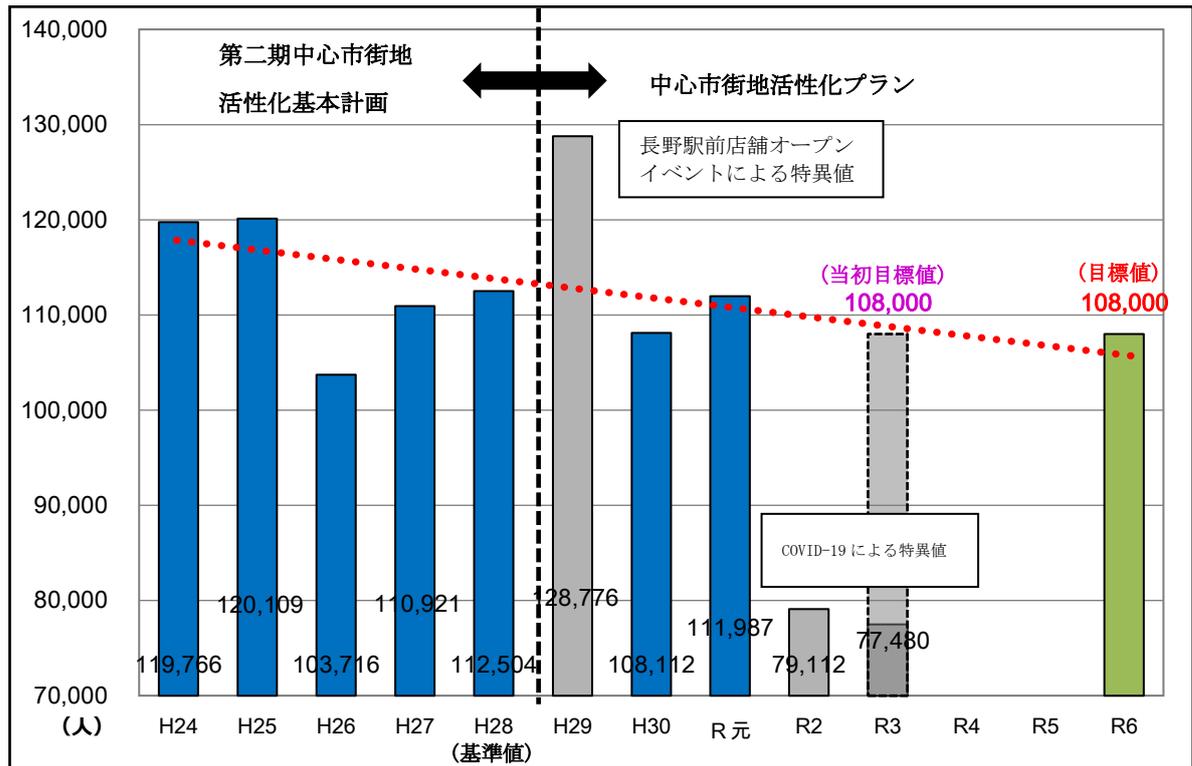
中心市街地人口については、9,599人と推定する。

以上により、令和6年度における人口比率を2.61%と推定するが、今後の事業の充実及び中心市街地内での民間主導のマンション建設も活発であるため数値を上積みして、目標値は変えず2.65%とする。

$$(9,599人 \div 367,341人) \times 100 \doteq 2.61\% \Rightarrow 2.65\% \text{ (目標値)}$$

(3) 目標指標 3-①「中心市街地(6地点)の歩行者・自転車通行量」に係る積算について

第二期計画では、北陸新幹線延伸開業と善光寺御開帳を念頭に、平成27年3月末を一つの画期として事業を展開し、特に目標達成に寄与するものとして、「長野駅善光寺口顔づくり事業」により、善光寺表参道の起点としての長野駅に、駅前町らしい外観や機能的な駅前広場など、まちの顔としてふさわしい機能を整備するとともに、「中央通り歩行者優先道路化事業」により、歩道の拡幅や石畳舗装、あるいは休憩場所の設置など、歩行環境と景観の向上を図ったが、回遊性の向上効果は十分に発現しておらず、3年後の令和6年度における予測値を、過去の実績値より回帰分析（平成29年、令和2・3年度の特異値を除く）すると5.43%減少すると推計される。

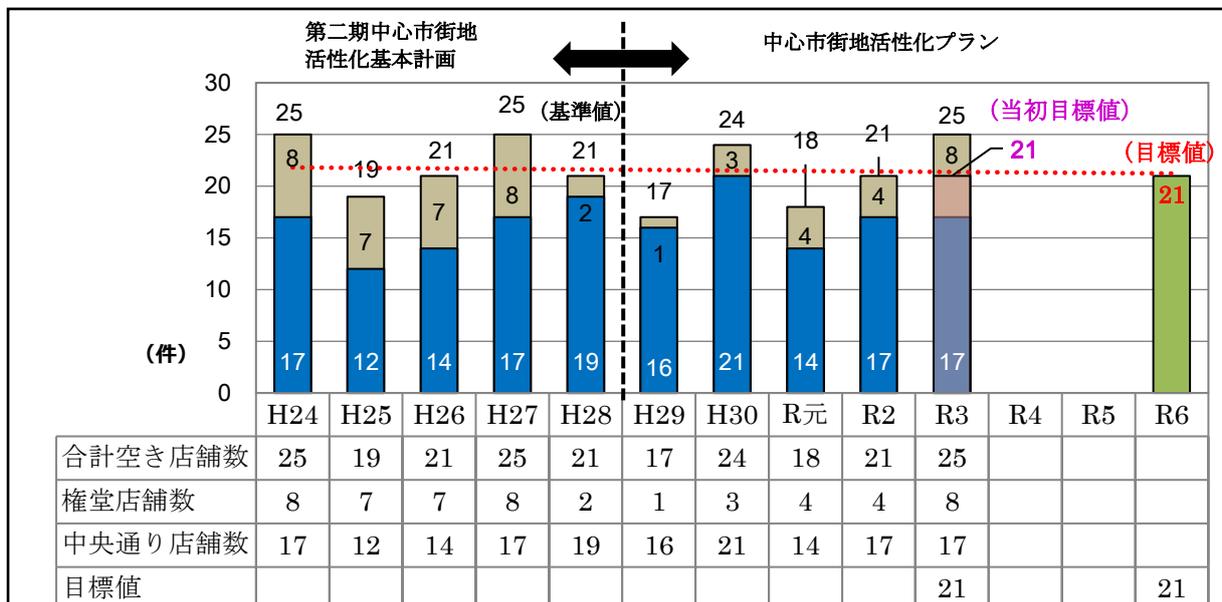


よって、令和6年度における歩行者・自転車通行量の予測数は106,395人となる。しかし、アフターコロナによるインバウンド需要や今後の事業の充実による効果、まちなか広場として令和2年にオープンしたセントラルスクエア利用者による効果等を上積みして、本計画では目標値を変えず108,000人とする。

$$112,504人 \times 94.57\% \div \doteq 106,395人 \Rightarrow 108,000人 (目標値)$$

(4) 目標指標 3-②「中央通り及び権堂アーケード沿い1階部分の空き店舗数」に係る積算について

中心市街地内でも、空き店舗数は近年増加傾向にある。3年後の令和6年度における予測値を、過去10年間の実績値より回帰分析により推計すると21件となる。



中心市街地の空き店舗数については、現在の目標値を変更せず、現状の21件とする。

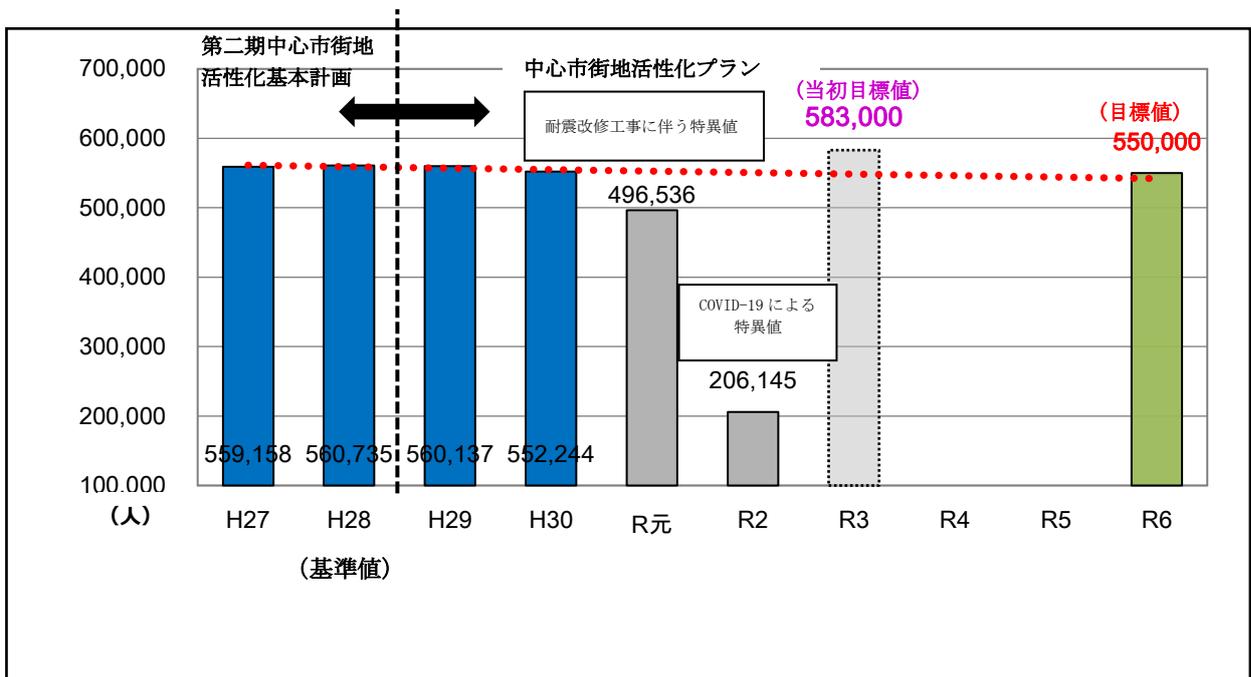
21件（過去10年間の実績値の回帰分析推定値） ⇒ **21件**（目標値）

(5) 目標指標④「もんぜんぷら座及び生涯学習センター並びに権堂イーストプラザ市民交流センターの利用者数」に係る積算について

善光寺表参道に立地し、中心市街地のシンボルの公益施設である「もんぜんぷら座」と「生涯学習センター」は、ともに中心市街地における市民交流と憩いの場として定着し、もんぜんぷら座では講演会やセミナー、生涯学習センターでは自主企画講座を多数開催するとともに、改修整備による利用環境の向上やPRチラシ・市政放送などの広報活動により安定した利用実績を継続している。また平成27年1月より供用を開始した「権堂イーストプラザ市民交流センター」では各種講座やイベントなどを実施しており、平成28年度以降、年間76,000人以上の利用実績がある。（令和2年度は除く）

【過去9年間における実績】

| 施設 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|-----------|---------------|----------|-------------|----------|----------|
| もんぜんぷら座 | 301,544人 | 297,134人 | 277,819人 | 291,878人 | 285,493人 |
| 生涯学習センター | 185,582人 | 181,068人 | 188,061人 | 207,513人 | 198,473人 |
| 権堂イーストプラザ | 平成27年1月5日オープン | | 2,721人 | 59,767人 | 76,769人 |
| 合計 | 487,126人 | 478,202人 | 468,601人 | 559,158人 | 560,735人 |
| 施設 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元（平成31）年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
| もんぜんぷら座 | 278,445人 | 273,315人 | 229,900人 | 109,635人 | - |
| 生涯学習センター | 204,941人 | 199,261人 | 190,386人 | 46,755人 | - |
| 権堂イーストプラザ | 76,751人 | 79,668人 | 76,250人 | 49,755人 | - |
| 合計 | 560,137人 | 552,244人 | 496,536人 | 206,145人 | - |



※令和元、2年度の特異値、令和3年度は調査中のため除外し、権堂イーストプラザ開業後の平成27年度から平成30年度までの実績値より回帰分析した数値を令和6年度推定値（基準値より3.55%減少）とする。

令和6年度における3施設の利用者数を540,829人と推定するが、権堂イーストプラザ開業以降、平成30年度までは年間550,000人以上で推移しているため、アフターコロナによる需要や今後の事業充実による効果を上積みして、本計画では550,000人を目標値とする。

$$560,735人 \times 96.45\% \doteq 540,829人 \Rightarrow 550,000人 (目標値)$$